

悪魔の眼 (1960)

DJALENS OGA

メディア 映画

ジャンル ロマン스 コメディ

製作国 スウェーデン

色彩 B&W

時間 90分

公開情報 劇場未公開・NHK衛星第2で放映

【解説】

“処女とは淑女を悩ます物もらい”とのアイルランドの格言で始まる本編は、ベルイマンなればこそその神学コメディであり、悪魔と、見えざる“あの方”すなわち神の、人間の貞操をめぐる駆け引きを知的かつロマンティックに綴った、映像的にも大変面白い傑作だ。

地獄の番人サタンの目に物もらいが出来た。彼は二人の悪名高き犯罪貴族に意見を求めるが、結局、自らの判断で性豪ドン・ファンに“愛の夢”を見ない眠りを約束し、彼を地上の処女陥落に遺わす。その悪徳が一番の治療の妙薬なのだ。従者ペドロを連れた彼は北欧の村で、結婚を間近に控えた愚直な牧師の娘に近づく。お目付け役のヘルも黒猫に化けて一緒である。エンストを直してくれた彼らを快く館に招き入れる牧師。娘（ブリット・マリー）は新築の別棟で新生活の準備に大わらわ。だが、結婚相手の自慢話に終始しながら、初対面の彼に自らキスをし、これでキスした男は37人目で結婚までに50人が目標なのだと言ふ。すっかり困惑するドン・ファンは自身の“愛”の哲学を神妙に語る。ペドロは病弱で臥せっている牧師の妻に積極的にアタックし、夫との愛を疑いかけている彼女はその晩危険を覚悟で彼を迎え入れる。一方、牧師は妻と娘の悪行を囁くヘルを戸棚に閉じ込めて、彼との会見録を執筆する。暢気なもので、彼は心の不安を訴えに来た妻をいつもの優しさでねぎらって、だから、彼女は悪魔に身を任せたのだが、逆に夫への確かな感情を自覚するに至り、ペドロは跪いて彼女に別れを告げるのだった。娘も一旦はドン・ファンを受け容れるが、そこに愛のないことを明言し、彼の気持ちは萎え、娘も平常心を取り戻す。誘惑は不成功に終わり、サタンは憤るが、戯れに大耳男に地上の新婚の二人の様子を中継させると、初夜を迎えた花嫁は花婿とキスをする際、“貴男以外とキスさえしたことがない”と言ふ。と、サタンの目の睡れは即座に引き、現世のさきやかな嘘も地獄では相当の効力を示すとの解説で締め括られる。

【クレジット】

監督 イングマル・ベルイマン Ingmar Bergman

原作 オルフ・バング

脚本 イングマル・ベルイマン Ingmar Bergman

撮影 グンナール・フィッセル Gunnar Fischer

音楽 エリック・ノードグレン Eric Nordgren

出演 ビビ・アンデション Bibi Andersson

ヤール・キューレ Jarl Kulle

ストゥーレ・ラーゲルバル

スティーグ・イエレル

ブリット・マリー